

感染症を踏まえた避難のあり方について

※以下の資料を、事務局にて編集し、情報共有を行う。

- ・新型コロナウイルス感染症流行時の災害と避難を考える手引き（地方自治体編）第二版（新型コロナ感染症と災害避難研究会）
- ・感染症蔓延下における避難所環境の考え方（日本赤十字北海道看護大学災害対策教育センター 資料）
- ・避難所における新型コロナウイルス感染症への対応の参考資料（内閣府）

感染症を踏まえた避難のあり方について

◆背景

- 2020年1月以降、全国で新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」）が発生・拡大した。
- 感染症のさらなる拡大の抑制や発生の防止を図るため、社会全体の生活形態・様式等にも変化が求められている。



感染症の現下の状況を踏まえ、災害が発生した際に、避難所の開設や避難行動においても、感染症対策に万全を期することが重要となる。

◆「感染症を踏まえた避難のあり方」についての視点

- 感染症を踏まえた避難のあり方を考えていく上で、以下のような視点がある。

1.避難の形態

分散避難の確立
（三密を避ける避難）

2.避難生活と健康被害

避難生活に起因する疾患と
その対策
避難所でのウイルス感染対策
避難所生活に必要な薬の対策

3.避難所の運用等

避難所収容能力の確保
避難時の健康状態による
振り分け
避難所内の区画、装備

感染症を踏まえた避難のあり方について

1. 避難の形態

- 従来の避難所避難を地域住民が実施すると避難所が密な状態となり感染リスクを高めてしまい、災害による被災に加えて感染症による二次被害が拡大する恐れがある。
⇒感染症を踏まえた避難の方法として**分散避難**が推奨される。

新型感染症に留意した多様な避難

感染症の拡大を防ぐために密を避けて避難を行う。

①在宅避難

自宅のリスクを把握した上で実施

②避難所避難

健常者と感染の疑いがある人を別離して収容
避難所内の区画等も整備

③ホテル避難

感染者または申請者（有料）がソーシャルディスタンス等を気にせずに生活可能

④青空避難

仮設のテントや公園・駐車場等の広場を利用して車中泊を実施

⑤縁故避難

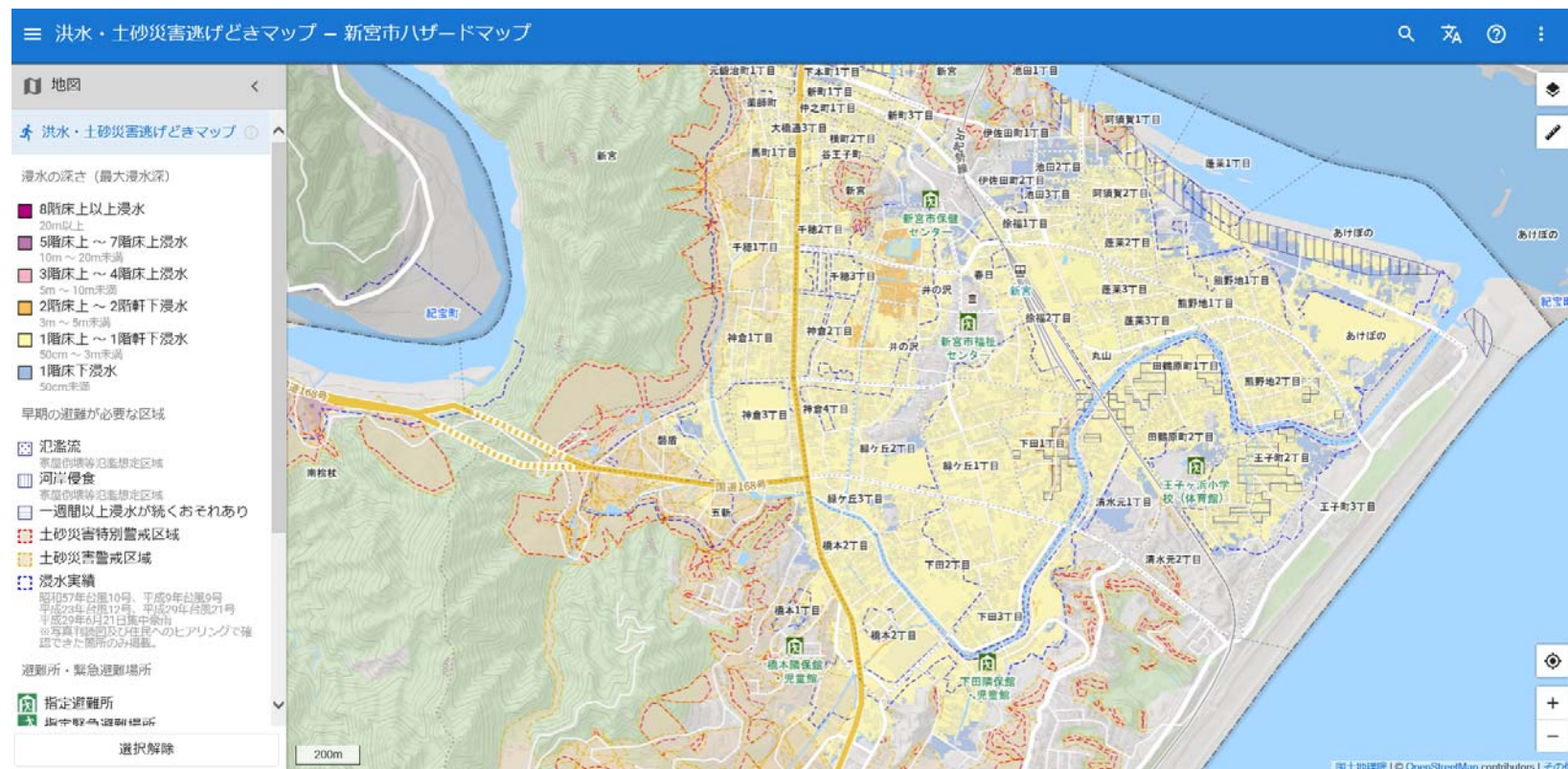
近隣地域の親戚や知人宅に避難を行う



感染症を踏まえた避難のあり方について

2. 被害リスクの確認と避難行動の選択

- 分散避難の実施に当たっては、住民自身が事前に自地域の水害リスクや土砂災害リスクを適切に把握し、避難方法を柔軟に選択できることが重要である。
- 新宮市では、5月29日に「Web版ハザードマップ」のサービスを開始しており、リスクの把握や逃げどきの判断を支援するツールとしての活用が期待される。
- 紀宝町では、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた避難対策を推進しており、近畿地整やCemiと連携した地区タイムラインの見直しや地域の災害リスクの把握・避難行動の判断を支援するリスクマップの作成を行っている。



感染症を踏まえた避難のあり方について

3. 避難生活と健康被害

○ 避難生活においては様々な健康被害が発生することに言及されており、感染症を踏まえた場合、さらなる健康被害が懸念される。

⇒発症する健康被害を把握し、**良好な避難所環境を整える**ことが必要である。

避難生活に起因する疾患：以前からも避難所生活では様々な健康被害が発生するとされていたが、新型コロナウイルス感染症が加わることで更なる対策が強いられる

避難生活で多発する災害関連疾患

- 循環器系疾患 → ストレス、塩分による高血圧，心不全
- エコノミークラス症候群・肺塞栓症
→ ストレス、トイレ、水分摂取
- 感染症・風邪 → ストレス、肺炎、インフルエンザ
- 呼吸器系疾患 → ほこりや換気不足による咳、喘息
- 一酸化炭素中毒 → 車中泊・マフラーの閉塞，発電機
- 熱中症 → 高温、水分不足、トイレ不足
- 低体温症 → 停電により暖房停止、床面の低温
- 便秘・下痢 → ストレス、食事問題
- 不眠 → ストレス、不安、環境問題
- 水虫 → 衛生環境問題、お風呂・シャワー不足

車中泊とエコノミークラス症候群・肺塞栓症について

【発症となる要因（発症しやすい状況）】

ストレスを受ける	水分を控える
運動をしない	トイレを控える
車中避難	高齢者や女性
コロナに感染する	



【発症する症状】

足のむくみ、痛み、腫れ
突然息苦しくなる
脈拍が増える 等

生活環境の水準が下がると災害関連疾患が発症しやすい。

分散避難で挙げられた青空避難（車中泊）においても災害関連疾患の発症や合併症等が懸念される

感染症を踏まえた避難のあり方について

4. 避難所の運用等

- 避難所生活はこれまでの災害発生時に比べて制限が増加し、運営面での困難が予想される。
→ マニュアル等を整備し、明確な**ルールの策定が必要**となる。

避難所の運用に関する課題：避難所の収容能力や、健康状態による部屋分け、パーソナルスペース・ソーシャルディスタンスを考慮した区画分け等が課題となる

●避難所の収容能力

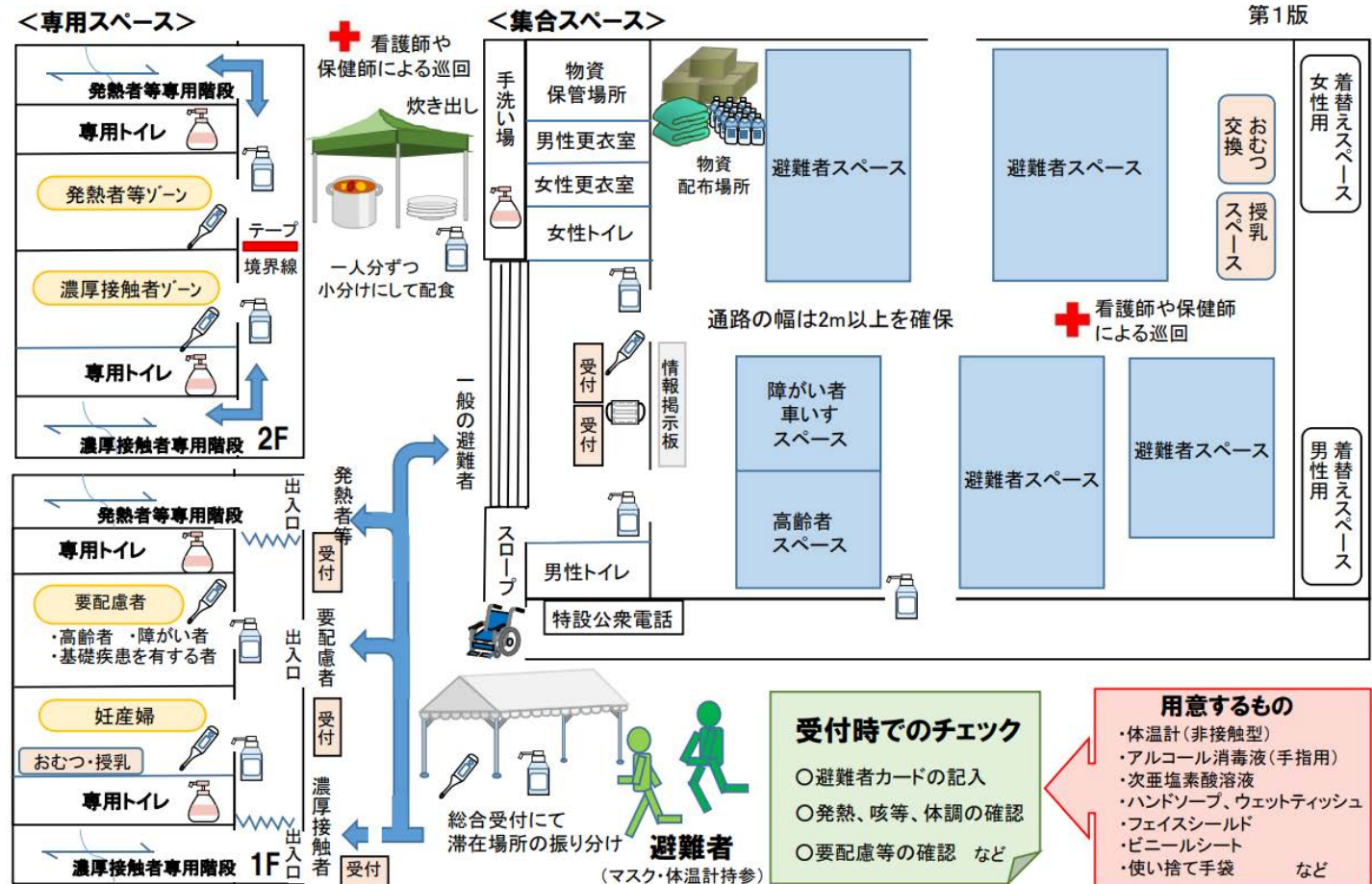
避難者1人当たりの避難所収容面積は1.57～2.93m²/人とされているが、感染症対策（ソーシャルディスタンス）を踏まえた場合4.0m²は確保しなければならず、避難所は従来の1/2以下の利用者数に限られてくると考えられる。

●避難時の健康状態

避難時に検温等を実施し、健康状態により避難所の部屋を分けることで感染拡大を防止する方法が考えられている。

●避難所内の区画整理

ソーシャルディスタンス、パーソナルスペースを考慮した区画整理が必要となってくる。



感染症を踏まえた避難のあり方について

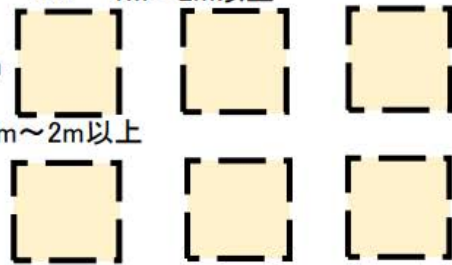
【参考】区画整理の例（健常者）

健康な者の避難所滞在スペースのレイアウト（例）

- 体育館のような広い空間において、健康な者が滞在するスペースとしては、以下のような方法が考えられる。
- 感染リスクの高い高齢者・基礎疾患を有する者・障がい者・妊産婦等が滞在这种情况下には、避難所内に専用スペースを設けることが望ましいが、体育館内に専用ゾーンを設け、以下と同様の考え方で利用することも考えられる。

テープ等による区画表示

(例) 3m 1m～2m以上
3m
1m～2m以上



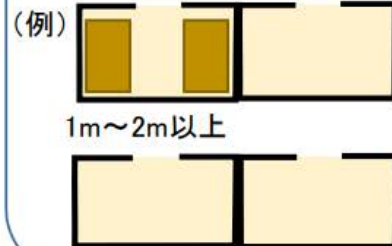
○ 一家族が一区画を使用し、人数に応じて区画の広さは調整する

○ 家族間の距離を1m以上あける

※ スペース内通路は出来る限り通行者がすれ違わないように配慮する必要がある

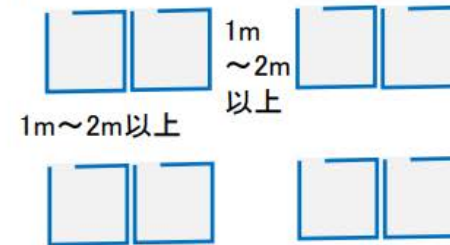
パーティションを利用した場合

○ 飛沫感染を防ぐため、少なくとも座位で口元より高いパーティションとし、プライバシーを確保する高さにすることが望ましい。また、換気を考慮しつつ、より高いものが望ましい。



テントを利用した場合

(例)



○ テントを利用する場合は、飛沫感染を防ぐために屋根がある方が望ましいが、熱中症対策に十分注意することが必要



※ 人と人の間隔は、できるだけ2m(最低1m)空けることを意識して過ごしていただくことが望ましい。

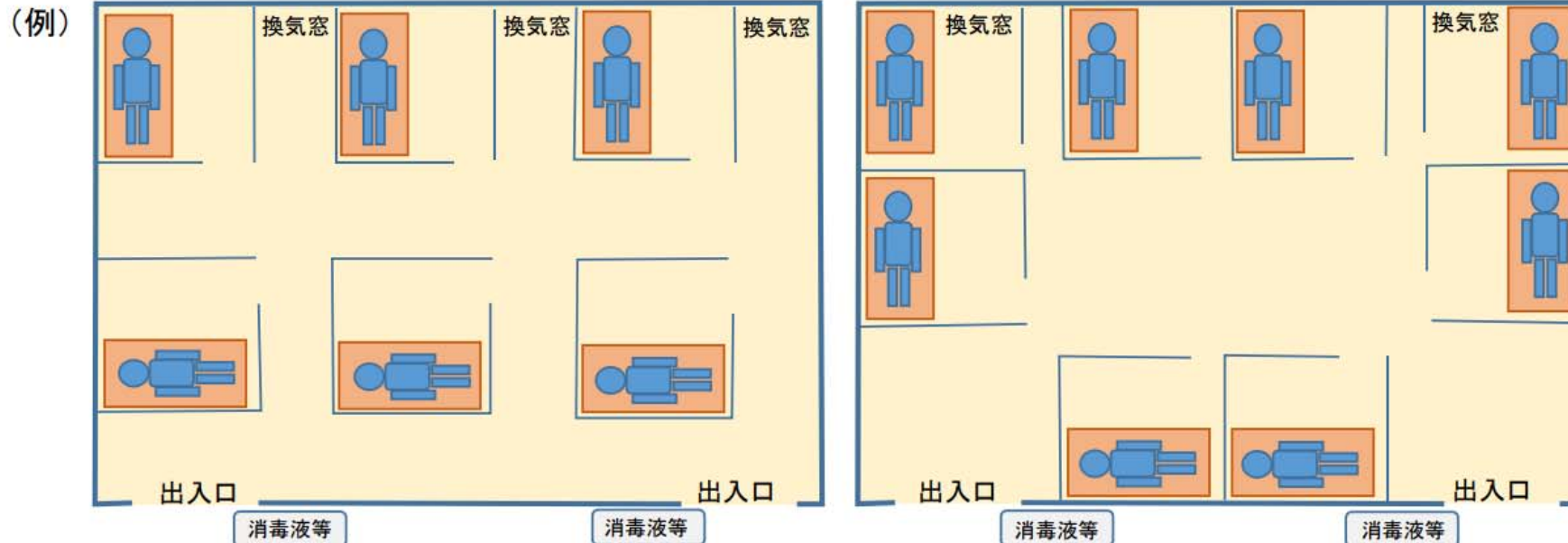
※ 上記は全て実施することが望ましいが、災害時において、種々の制約が想定され、出来る範囲で最大限実施することが望まれる。

感染症を踏まえた避難のあり方について

【参考】区画整理の例（感染の疑い・濃厚接触者等）

発熱・咳等のある者や濃厚接触者専用室のレイアウト（例）

- 発熱・咳等のある者は、可能な限り個室にすることが望ましいが、難しい場合はそれぞれ専用のスペースを確保する。やむを得ず同室にする場合は、パーティションで区切るなどの工夫をする。
- 濃厚接触者は、可能な限り個室管理とする。難しい場合はそれぞれ専用のスペースを確保する。
※濃厚接触者は、発熱・咳等のある者より優先して個室管理とする。



※飛沫感染を防ぐため、少なくとも座位で口元より高いパーティションとし、プライバシーを確保する高さにすることが望ましい。また、換気を考慮しつつ、より高いものが望ましい。

- ・軽症者等は、予め災害時の対応・避難方法等を決めておくことが望ましいが、避難所に一時的に滞在する場合がある。
- ・感染予防および医療・保健活動のしやすさの観点から、地域における感染拡大状況や、各避難所、活用するホテル・旅館等の状況を踏まえ、防災担当部局や保健福祉部局等の連携のもと、必要に応じて特定の避難者の専用の避難所を設定することも考えられる。
(例：高齢者・基礎疾患を有する者・障がい者・妊産婦用、発熱・咳等の症状のある者用、濃厚接触者用)

※ 上記は全て実施することが望ましいが、災害時において、種々の制約が想定され、出来る範囲で最大限実施することが望まれる。

感染症を踏まえた避難のあり方について

【参考】避難所避難対策案

段ボールベッド+段ボールパーティション

- ・着座しているときには頭が出ないこと（高さ140cm以上）
- ・万が一、感染者が出た場合を考慮し、使い捨てが望ましい
- ・段ボール表面は、コロナウイルスの残存が少ない（布や木材と比較）



トイレ解決案

既設トイレを利用する携帯トイレ方式
（ルール等を策定する必要あり）



- ・就寝時、咳が上方に飛散することを防ぐ寝いも有効
- ・台風19号被害では、経産省からマットレスと電気毛布がプッシュ資材として
- ・段ボールベッドとマットレスのセットは必須資材



トイレ解決案2

コンテナ型トイレの展開

